

第5次神戸市基本計画 原案の概要

- 神戸づくりの指針
- 神戸2015ビジョン
- 各区計画
(案)

平成22年11月25日

目次

第5次神戸市基本計画の策定趣旨	1
神戸づくりの指針	3
神戸づくりの指針の全体構成	4
第1部 2025年の神戸のまちの展望	5
第2部 暮らしを守り経済を発展させる	6
第3部 ひとを育み新たな豊かさを創造する	7
第4部 安全を高め未来につなぐ	7
第5部 神戸を支えるまちを形成する	8
第6部 「神戸づくり」にともに取り組む	8
第7部 「世界の中での神戸」を確立する	9
むすび 「ひと」を「たから」とし、新たな豊かさをともに創造する（協創）	9
神戸2015ビジョン	11
はじめに 「神戸2015ビジョン」の基本的考え方	12
テーマ1 暮らしをまもる	15
テーマ2 いのちをまもる	16
テーマ3 新たな活力を生み出す	17
テーマ4 産業を活性化する	18
テーマ5 多様な市民が活躍する	19
テーマ6 次世代市民を育む	20
テーマ7 安全・安心の基盤を築く	22
テーマ8 持続可能なまちをつくる	23
テーマ9 人と人とのつながりを深める	25
テーマ10 行政の「つながる力」を高める	26
テーマ11 創造性を高め発揮する	27
テーマ12 まちの魅力を高め発信する	28
むすび 「神戸2015ビジョン」の実現に向けて	29
各区計画	31
1 考え方	32
2 基本的な構成	32
3 各区の将来像と2015年度までの主な取り組み	33
参考資料 神戸市総合基本計画審議会名簿	39

第5次神戸市基本計画の策定趣旨

1 計画の意義・役割

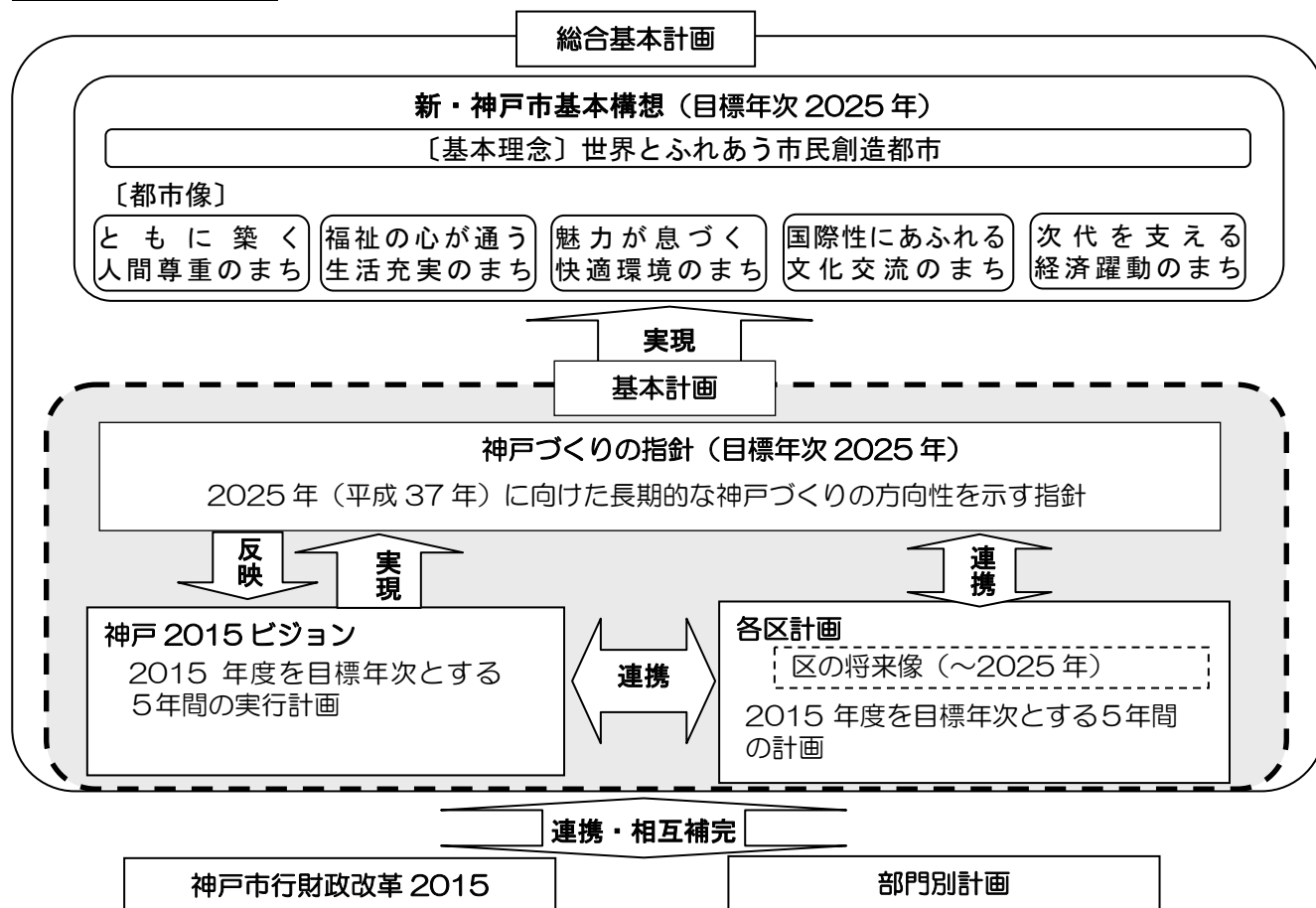
基本構想… 市の最高理念であり、21世紀における基本姿勢を市会の議決を経て示したものの。

基本計画… 基本構想に描かれた都市像の実現をめざし、まちづくりの基本的な姿勢を示すもの。

(神戸市の基本構想・基本計画の策定経緯)

	1965年～ (昭和40年)	1974年～ (昭和49年)	1986年～ (昭和61年)	1993年～ (平成5年)	2011年～ (平成23年)
基本構想		人間都市神戸の基本構想 1974年(昭和49年)策定		新・神戸市基本構想 1993年(平成5年)策定	
基本計画 ・区別計画	〈第1次〉 神戸市総合基本計画 1965年(昭和40年)策定	〈第2次〉 人間都市神戸の基本計画 1976年(昭和51年)策定	〈第3次〉 人間都市神戸の基本計画(改定) 1986年(昭和61年)策定	〈第4次〉 第4次神戸市基本計画 1995年(平成7年)策定 区別計画 1996年(平成8年)策定	〈第5次〉 第5次神戸市基本計画 2011年(平成23年)策定 ・神戸づくりの指針 ・神戸2015ビジョン ・各区計画
中期計画	神戸市生活環境基準 新・神戸市生活環境基準 第3次神戸市生活環境基準		神戸市都市環境基準 新・都市環境基準		神戸2010ビジョン 2005年(平成17年)策定 区中期計画 2005年(平成17年)策定 (基本計画に統合)

2 計画の基本構成



参考 策定までの経緯

審議会など	市民参画
<p>20年7月 「神戸市次期基本計画のあり方懇話会」設置・懇話会①</p> <p>8月 懇話会②</p> <p>9月 懇話会③</p> <p>10月 懇話会④</p> <p>11月 懇話会報告書提出</p> <p>21年2月 「神戸市総合基本計画の策定方針」発表 3月～区民まちづくり会議での検討（～22年度）</p>	<p>20年6月 市民ワークショップ①</p> <p>9月 市民ワークショップ②</p> <p>11月 市民ワークショップ③</p> <p>12月 懇話会報告書に対する意見募集</p> <p>21年1月～区民アンケートの実施 2月 大学生からの提言募集</p>
<p>21年7月 「神戸市総合基本計画審議会」設置・総会①</p> <p>8月 都市空間部会①、活力・魅力部会①</p> <p>9月 市民生活部会①、都市空間部会②</p> <p>10月 都市空間部会③、市民生活部会②③、活力・魅力部会②</p> <p>11月 活力・魅力部会③</p> <p>12月 調整部会</p> <p>22年2月 総会②</p> <p>3月 都市空間部会④、市民生活部会④、活力・魅力部会④</p>	<p>21年6月～小学生の作文募集</p> <p>7月～各区シンポジウムの開催</p> <p>7月 「中高生しゃべり場 with 神戸市長」の開催</p> <p>7月 中学生による「子ども議会」の開催</p> <p>8月 広報紙特別号による市民意見募集</p> <p>10月～各種団体へのヒアリング</p>
<p>22年4月 総会③</p> <p>5月 重点施策計画検討部会①</p> <p>7月 重点施策計画検討部会②</p> <p>9月 重点施策計画検討部会③</p> <p>10月 重点施策計画検討部会④</p> <p>11月 総会④、⑤</p>	<p>22年5月～「神戸づくりの指針 中間とりまとめ」に対する市民意見募集</p> <p>9月 市民ワークショップの実施</p> <p>12月～基本計画原案に対する市民意見募集</p>

神戸づくりの指針（概要）

神戸づくりの指針の全体構成

計画策定にあたっての前提

第1部 2025年の神戸のまちの展望

◆主な社会潮流

- ①少子・超高齢化の進行 ②グローバル化する社会・経済
- ③地球温暖化防止への取り組み
- ④地域主権改革の取り組みと指定都市の課題

◆神戸をめざす都市像

創造都市（デザイン都市）の実現

◆神戸づくりの視点

- ①市民の視点：市民一人ひとりが能力を発揮するまち
- ②地域の視点：人と人とのつながりを活かし地域が主体となるまち
- ③広域的な視点：新たな価値を創造し世界へ発信するまち

神戸の現状と将来直面する様々な課題、指針の視点を示します。

協働による取り組みの方向性

市民のくらしの安定化を図るための早急な取り組み

第2部 くらしを守り経済を発展させる

〈くらし〉福祉、健康、住まい、消費者問題など

〈経済〉雇用、地域経済、ものづくり、観光交流、企業誘致など
次の世代に向けた将来への取り組み

第3部 ひとを育み新たな豊かさを創造する

・ユニバーサル社会、子育て、教育、文化、知識産業など

安全で環境に配慮したまちづくりへの取り組み

第4部 安全を高め未来につなぐ

・防災・防犯、自然共生、景観形成、低炭素社会など

くらしをまもり、経済を活性化させ、神戸のまちの魅力を高めるために必要となる、協働と参画による取り組みを示します。

取り組みを支える「まち」「ひと」「しくみ」

これからのまちの姿づくり

第5部 神戸を支えるまちを形成する

・都市構造、土地利用、交通体系など

市民、事業者、行政が一体となったまちづくり

第6部 「神戸づくり」にともに取り組む

・協働と参画、行政の効率化、地域づくりなど

取り組みを実現するための、まちの姿を示します。

「協働と参画」のさらなる推進への取り組みや神戸づくりを支える仕組み等を示します。

多様な「ひと」による神戸づくり

グローバル社会において輝きを放つ神戸

第7部 「世界の中での神戸」を確立する

・多様な「ひと」が集い・交わり・活きるまち、リーディングエリアでの取り組み

グローバル化に対応した「世界の中での神戸」の確立に向けた取り組みを示します。

まちづくりの起点を「ひと」に

むすび 「ひと」を「たから」とし、新たな豊かさをともに創造する（協創）

多様な「ひと」の集積、交流と活躍を、未来の神戸づくりの基本として示します。

第1部 2025年の神戸のまちの展望

この部の概要

神戸づくりの指針を策定するにあたって、神戸を取り巻く主な社会潮流を整理・分析し、今後の神戸づくりを進めるにあたっての基本的な考え方を「視点」として示すとともに、神戸づくりの指針の構成の考え方を示します。

1 神戸を取り巻く社会・経済の動き

① 少子・超高齢化の進行

- ・長期的には人口減少に転じるとともに、急速な高齢化の進行が予測されている

【神戸市の人口動向】

	1990年(平成2年)	2005年(平成17年)	2025年(平成37年)推計
75歳以上	6.8万人(4.6%)	13.2万人(8.7%)	28.0万人(19.1%)
65～74歳	10.1万人(6.9%)	17.3万人(11.4%)	17.7万人(12.0%)
15～64歳	104.0万人(70.4%)	101.6万人(66.6%)	87.2万人(59.5%)
0～15歳	25.7万人(17.4%)	20.0万人(13.1%)	13.8万人(9.4%)
全市人口	147.7万人	152.5万人	146.7万人

注) 1990年、2005年は国勢調査、2025年は国立社会保障・人口問題研究所による推計値(中位推計)。

2005年までの全市人口には年齢不詳を含むため、内訳の合計と一致しない。

② グローバル化する社会・経済

- ・グローバル化の進展は、経済における日本の相対的地位の低下や市民生活の不安定化の一要因となっている

③ 地球温暖化防止の取り組み

- ・地球的課題である温室効果ガス排出削減の取り組みが、神戸においても喫緊の課題となっている

④ 地域主権改革・指定都市制度の課題

- ・現在の指定都市の持つ税財源や権限が十分ではなく、地域主権の実現に向けた権限と税源の移譲に向けた取り組みが必要となっている

2 現状から見えてくること

- ・少子・超高齢化等に対応し、神戸の活力を維持・向上するための取り組みの推進による人口の社会増・自然増の促進
- ・関西における都市間連携の一層の強化によるメガ・リージョンの形成
- ・一人ひとりの生活や都市構造・産業構造の転換による低炭素社会の実現

3 神戸をめざす都市像と神戸づくりの視点

(1) 創造都市(デザイン都市)の実現

- ・神戸のまちが持つ魅力や資源、協働と参画による震災復興の取り組みなどを活かし、デザインの視点で磨きをかけ、暮らしを豊かにし経済を活性化させる創造都市(デザイン都市)を推進する

(2) 神戸づくりの視点

① 市民の視点：市民ひとりひとりが能力を発揮するまち

- ・年齢・性別・身体状況・国籍等に関わらず、それぞれの持つ能力を発揮し支えあうまちをめざす

② 地域の視点：人と人とのつながりを活かし地域が主体となるまち

- ・地域での取り組みを強化し、行政とともに役割分担を行いながらまちづくりを進める

③ 広域的な視点：新たな価値を創造し世界へ発信するまち

- ・国内外の多様な人材が集積し交流・融合することで新たな価値を創出するとともに、グローバル化に対応するためのメガ・リージョンを形成する

第2部 暮らしを守り経済を発展させる

この部の概要

グローバル化の進展により、世界経済の動きが私たちの暮らしに直接大きな影響を与えるようになり、雇用や経済の不安定化を招いています。また、急激な少子・超高齢化の進行も、私たちの暮らしに大きな影響を与え、将来への不安につながっています。

まずはじめに、生活の基礎となる福祉や健康、雇用や産業振興など各分野の「暮らしをまもり、経済を発展させる」取り組みを横断的に実施し、少子・超高齢化やグローバル化の進展に対応します。

暮らしをまもる

1 ともに支えあう社会をつくる

- ・高齢、障がいや貧困など様々な理由で支援を必要とする人々への対応
- ・身近なコミュニティでの見守りや支えあい
- ・あらゆる人を重層的に包容する社会の実現（ソーシャル・インクルージョン） など

2 安心な暮らしをまもる

- ・救急医療や「こころの健康」対策等の充実
- ・住宅確保要配慮者への対応
- ・消費者被害を防ぐ見守り など

3 働きやすい環境を整える

- ・ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・働く場の安定的な確保 など

経済を発展させる

4 暮らしに身近な産業を振興する

- ・農漁業、商業など地域に根ざした産業の活性化
- ・社会的企業の振興 など

5 ものづくりを核に産業の高付加価値化を図る

- ・低炭素社会に貢献するエネルギー分野などの成長分野の強化
- ・デザイン・サービスによる付加価値の向上
- ・大企業・大学・中小企業と連携したものづくり技術の向上 など

6 観光交流と企業誘致を進める

- ・MICE（多くの集客観光が見込まれるビジネスイベントの総称）など集客観光の促進
- ・高い利便性や知的プロジェクト、港の機能強化等を活用した企業誘致の推進 など

第3部 ひとを育み新たな豊かさを創造する

この部の概要

神戸のまちが将来にわたり発展するため、一人ひとりの違いや個性を認め尊重し合うとともに、次の世代を担う子どもや若者が健やかに成長し、活躍できるまちとなることをめざします。

さらに、文化・芸術により人びとの感性やまちの魅力を高めるとともに、先端医療などの知的分野における産業の振興や、大学等の高等教育機関の集積を活かし、神戸のまちの成長力を高めます。

1 一人ひとりを大切にする

- ・人権の尊重
- ・ユニバーサルデザイン（UD）の推進 など

2 子どもを健やかに育む

- ・家庭や地域の子育て力向上
- ・学校教育の充実 など

3 神戸の文化を継承し創造する

- ・文化を活かしたまちづくり
- ・都市ブランドの向上 など

4 「知の集積」を活かす

- ・神戸医療産業都市構想の推進
- ・次世代スーパーコンピュータ（京速コンピュータ「京」）の利活用推進
- ・大学等の知的資源の活用 など

第4部 安全を高め未来につなぐ

この部の概要

市民の生活や企業活動など、安心して暮らしを営むためには、その舞台となるまちが将来にわたって持続できるものである必要があります。

そのため震災の教訓をふまえ、防災・減災の取り組みや、山や海など豊かな自然を守る取り組み、また地球的規模の課題である地球温暖化問題に対応したまちづくりを進めていきます。

このような取り組みを進めることで、安全で、自然豊かで、魅力あふれるまちを将来の世代に継承していきます。

1 まちの安全を確保する

- ・都市基盤施設の適正管理や長寿命化の推進
- ・都市防災機能の向上
- ・防災意識の向上 など

2 まちの美しさや魅力を守り高める

- ・自然環境の保全育成
- ・特色あるまちなみや魅力ある景観の形成 など

3 低炭素社会を実現する

- ・都市機能や交通環境、エネルギー利用など様々な面からの都市の低炭素化
- ・低炭素関連産業の振興 など

第5部 神戸を支えるまちを形成する

この部の概要

市民や事業者などのあらゆる活動の舞台となる「まち」について、これまで築いてきた都市基盤を活かし、豊かな自然環境との調和を図りながら、暮らしを豊かにし、経済を活性化する都市空間づくりを進めます。

1 めざすまちの姿

- ・様々な都市機能と豊かな自然環境の調和
- ・都心域、地域拠点・連携拠点、産業エリア等の機能強化 など

2 地域特性を活かした土地利用を図る

- ・神戸のまちを形成する3つのゾーン（①まちのゾーン、②田園のゾーン、③みどりのゾーン）の維持・活用
- ・住宅開発による市街化区域の拡大抑制
- ・適正な土地利用の誘導 など

3 海・空・陸の総合交通環境をつくる

- ・人の交流促進・経済の活性化につながる交通環境の形成
- ・公共交通への利用転換の促進 など

第6部 「神戸づくり」にともに取り組む

この部の概要

将来の神戸づくりに向けた取り組みの基本となる、民・学・産と行政による「協働と参画」の取り組みを一層推進するため、各主体の責任と役割について認識を共有するとともに、各主体間の相互の信頼やきずなをこれまで以上に深める仕組みを構築します。

また、地域主体のまちづくりを進めるための制度や仕組みを整備し、市民の知恵と力が活躍する、個性豊かな地域の育成を進めます。

1 協働と参画をさらに進める

- ・各主体（市民・大学等・事業者・市）の役割分担と相互の信頼、きずなの醸成
- ・協働と参画の仕組みの充実 など

2 効率的な経営をさらに進める

- ・市民満足度の高い効率的な行政システムの構築
- ・税財政制度の見直しや新たな大都市制度による地域主権の確立 など

3 みんなで「わがまち」を育む

- ・人と人とのつながりが豊かなまちづくり
- ・総合的・自律的な地域運営の展開 など

4 地域の特色ある環境をともに育む

- ・密集市街地の再生
- ・ニュータウンのオールドタウン化への対応
- ・田園地域の活性化

第7部 「世界の中での神戸」を確立する

この部の概要

神戸のまちが直面する様々な課題に対応しながら、同時に国内外に存在感を示し選ばれる都市であり続けるために、性別・身体的能力や特徴、人種、価値観などあらゆる多様性が尊重され、それら多様な人材が「集い」、「交わり」、「生きる」まちづくりを進めます。

また、神戸のにぎわいや活力の創造を先導し、世界に向けて神戸の魅力を発信するリーディングエリアの形成を進めます。

これらの取り組みのもとに、次々と新たな価値やイノベーションが生み出される「世界の中での神戸」の確立を図ります。

1 多様な「ひと」が集い・交わり・生きるまちへ

- ・都市ぐるみでの「多様性が生きるまちづくり（ダイバーシティ・マネジメント）」の推進
- ・人材に着目した取り組みの推進 など

2 にぎわいと活力をもたらすリーディングエリアを形成する

- ・神戸の特性を活かしたメガ・リージョンにおける拠点づくり
 - (1) 都心・ウォーターフロント ～世界に誇れる『港都 神戸』～
 - (2) ポートアイランド ～世界に開かれた未来志向型都市～
 - (3) 兵庫運河周辺 ～世界に貢献するものづくりのまち～

むすび

「ひと」を「たから」とし、新たな豊かさをともに創造する（協創）

- 豊かな自然、異国情緒あふれるまち、先取気鋭の精神、震災復興の経験・協働
- 一方で、グローバル化や超高齢化など、これまでにない社会の変化への対応が必要

都市ぐるみで

- ・「ひと」を、これからの神戸づくりにおけるかけがえのない「たから」と捉える
- ・多様性が生きるまちづくりを推進しながら、新たな創造やイノベーションを生み出す
- ・多様な「ひと」のきずなを深めながら、協働と参画をさらに発展的に推進する

「ひと」を「たから」とし、新たな豊かさをともに創造する（協創）

先人たちの歩みを引き継ぐ

- ・明治の「観音林倶楽部」や賀川豊彦など、市民の自律的・相互扶助による取り組みの歴史
- ・戦災、水害・震災など、幾多の苦難を支えあい乗り越えてきた歴史

神戸 2015 ビジョン（概要）

はじめに 「神戸 2015 ビジョン」の基本的考え方

1 計画策定の趣旨

基本計画のうち、2011年度（平成23年度）から2015年度（平成28年度）までの5年間で取り組む新しい取り組みや、これまで以上に拡充する取り組みを中心とした具体的な実行計画として策定する。

2 「神戸 2010 ビジョン」での経験や成果を踏まえた計画策定

- ・協働と参画による取り組み
- ・PDCAサイクルによる進行管理
- ・検証・評価において示された課題への対応

3 計画の背景

計画期間（2011～2015年度）において、特に市民生活に大きな影響を与えられらる2つの大きな社会潮流

①少子・超高齢化の進行

- ・計画期間内に予想される市内人口減少への転換
- ・生産年齢人口の減少、高齢者の増加による財政への影響

②グローバル化する社会・経済

- ・世界的な経済環境の変化が与える市民生活への直接的影響
- ・企業業績の悪化や賃金の低水準化など雇用環境の不安定化

4 計画の目標

神戸づくりの指針（15年間の取り組みにより実現する都市像）

「新しい価値を生み出す創造都市（デザイン都市）の実現」

2015 ビジョン（5年間の取り組みの目標）

「暮らし・経済の向上」

「新たな価値・魅力の創出」

- ・多様な人材の能力の発揮
- ・デザインの力（神戸の持つ魅力、人の創造性の活用）

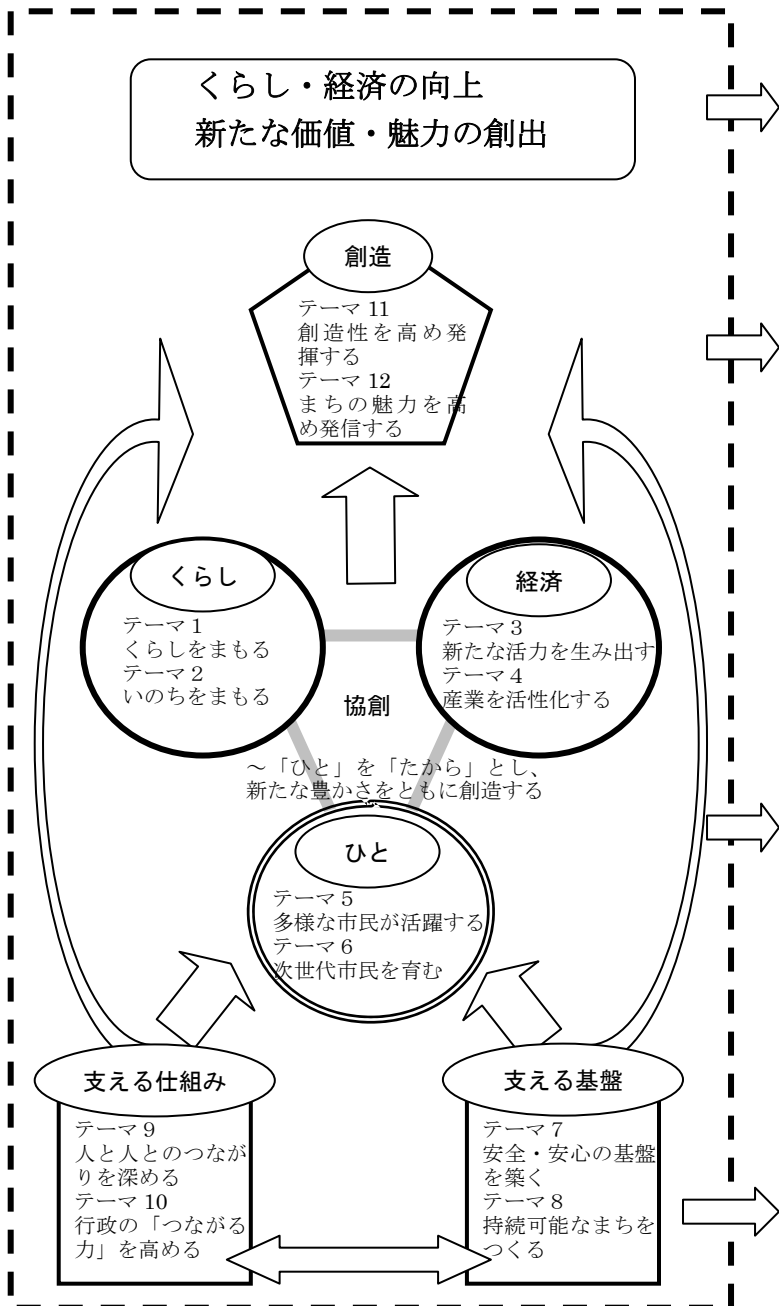
5 計画策定の基本方針

(1) 選択と集中による重点化

- ・市民のいのちや暮らしを守り、将来の神戸の成長・発展のため5年間で特に注力すべき施策を「重点施策」として位置づける。
- ・取り組みについて、新規・拡充事業を中心に具体的な事業レベルで絞り込んで掲載する。

- (2) 協働と参画による取り組みの明確化
 - ・重点施策ごとに市民・大学等・事業者と行政の役割について記載する。
 - ・市内部でも組織の枠を越えた横断的な取り組みを推進する。
- (3) 目標・スケジュールの明確化と着実な進捗管理
 - ・事業ごとに5年間の目標・スケジュールを明確化する。
 - ・毎年度進捗状況についての検証・評価を行うとともに、計画期間中においても計画内容を柔軟に見直す。
- (4) 他の計画との連携
 - ・「神戸市行財政改革 2015（計画期間：2011～2015 年度）」との一定の関連性を確保する。
 - ・各分野の部門別計画との連携・補完を行い施策を展開する。

「神戸 2015 ビジョン」の構成



くらし・経済の向上
新たな価値・魅力の創出

創造

テーマ 11
創造性を高め発
揮する
テーマ 12
まちの魅力を高
め発信する

くらし

テーマ 1
くらしをまもる
テーマ 2
いのちをまもる

経済

テーマ 3
新たな活力を生み出す
テーマ 4
産業を活性化する

協創

～「ひと」を「たから」とし、
新たな豊かさをともに創造する

ひと

テーマ 5
多様な市民が活躍する
テーマ 6
次世代市民を育む

支える仕組み

テーマ 9
人と人とのつなが
りを深める
テーマ 10
行政の「つながる
力」を高める

支える基盤

テーマ 7
安全・安心の基盤
を築く
テーマ 8
持続可能なまちを
つくる

神戸が持つ独自の地勢的条件や自然などを前提に、行政として着実に実施していくべき基礎的・基本的かつ重要な事業は数多くある。

この神戸 2015 ビジョンは、こうした土台となる事業をしっかりと行っていくことを前提としたうえで、特に今後 5 年間、課題の解決のために取り組んでいくべき新規・拡充事業を位置づけるものである。

急速な少子・超高齢化やグローバル化が進展する中、市民の生活が不安定に陥ることがないように「くらし・経済を向上させること」、そして将来の神戸の発展のため、「新たな価値・魅力を創出すること」を、5 年間の目標として設定している。

この目標実現に向けた取り組みを通じて「新しい価値を生み出す創造都市（デザイン都市）」の実現を図る。

激しい都市間競争の中で今後の神戸が発展を続けるためには、「創造性」を高め、発揮することが不可欠である。

創造的な活動を担う人材の集積と活躍、そして創造の源となるまちの魅力の向上・発信を位置づける。

神戸づくりの指針において、「ひと」を「たから」とし、新たな豊かさをともに創造することを「協創」の理念として打ち出している。

神戸 2015 ビジョンにおいても「ひと」を中心に据え、雇用などを通じて多様な人が能力を発揮できる社会をめざす。そのためには、福祉や雇用などの充実を図る「くらし」と、産業を元気にする「経済」が「ひと」を支える車の両輪となる。

ひとが活躍し、神戸 2015 ビジョンの目標（くらし・経済の向上、新たな価値・魅力の創造）を実現するうえで、必要となる仕組みづくりである。

「支える基盤」においてはまちの安全や環境など市民がくらししていくうえで最も基本になる部分をしっかり守る。

「支える仕組み」においては地域コミュニティとの協働や都市間連携などを位置づける。

テーマ1 くらしをまもる

急速な少子・超高齢化や、グローバル化に伴う就労環境の変化などを克服し、すべての人がくらしの基盤を安定させるため、福祉のセーフティネットや医療、住まい等の充実、働く場の確保などの様々な取り組みを充実し、相互の連関を図る。

2015年の神戸

- ・「地域福祉ネットワーク（仮称）」の活動等を通じて、多様な関係機関・関係者の分野を越えた地域福祉の重層的ネットワークが構築されることで、複合的な課題を抱えた市民が適切なサービスを受けられる取り組みがすすんでいます。
- ・市民が地域福祉センターなどの身近な場所で必要な福祉情報を得られ、軽度な困りごとについて助け合い、また多様な機関が連携して途切れずに専門的支援を行う「ワンストップサービス機能」の構築が進んでいます。
- ・2010年度～13年度の4年間で2万人雇用を達成し、続く2年間でさらなる雇用創出を続けています。
- ・障がい者の支援体制については、発達障害者相談窓口が4か所から14か所に、就労推進センターが4か所から6か所にそれぞれ拡充され、就労支援ネットワークについても一層強化されています。

重点施策	事業内容
(1) 安心できる地域生活の実現	① 地域福祉の支援者間の重層的ネットワークと連携機能の強化 ② ワンストップサービス機能の構築 ③ 地域との協働による見守りシステムの充実 ④ 一人暮らしの高齢者等の権利擁護事業の拡充 ⑤ 女性に対する暴力の根絶推進 ⑥ 住宅セーフティネットの構築 ⑦ 消費者問題への対応強化
(2) 新たなつながりによる支えあいの推進	① ちょっとボランティア運動の推進 ② NPO や社会的企業などによる支えあい
(3) 働く場の確保	① 2万人雇用の創出 ② 就業の促進（神戸ワーク・ネットワーク）
(4) 障がい者の自立と社会参画の推進	① 障がい者の相談支援体制の充実 ② 施設や精神科病院から地域生活への移行、定着支援 ③ 障がい者就労支援の充実
(5) 市民の主体的な健康づくりの推進	① 健康診査やがんなどの各種検診の受診率向上 ② 受動喫煙防止対策の推進 ③ 「健康を楽しむまちづくり」の推進における神戸医療産業都市構想の成果の活用

テーマ2 いのちをまもる

震災の最大の教訓である「地域を中心とした人と人のきずな」を活かし、災害に強いまちづくりに取り組むとともに、新型インフルエンザをはじめとする新たな感染症対策や自殺問題への対応なども含め、市民のいのちを守るうえで欠かせない施策を総合的に展開する。

2015年の神戸

- ・2012年度に供用開始される「危機管理センター」を拠点として、新危機管理情報システムなどを活用することで、災害などの発生時の初動対応が強化されています。各局室区の防災組織計画の各業務について、2015年度までに100様式がシステムに登録されています。
- ・震災文書の保存・発信や、市民防災リーダーの養成（現状9,500人→2015年度13,000人）、市民救命士の養成（現状42万人→2015年度57万人）、地域の防災力向上などの取り組みを通じて、震災の教訓の次代への継承や、国の内外への発信が進められています。
- ・「中央市民病院」や「神戸こども初期急病センター」などの救急拠点機能が充実し、持続可能な救急医療体制が構築されています。
- ・2012年度設置予定の「自殺予防情報センター（仮称）」などの活用により、自殺対策が一層充実されています。

重点施策	事業内容
(1) 防災機能の強化	① 危機管理センターの整備・運営 ② 新危機管理情報システム等の整備・運用 ③ 消防力の高度化・専門化 ④ 企業の自主防火管理体制の強化 ⑤ 応急給水活動の拠点整備と地域の取り組みの推進
(2) 震災の教訓の継承・発信	① 震災関連文書の保存と発信 ② 危機管理センターを用いた市民啓発の推進 ③ 防災や救急救命を担う人材育成 ④ 地域の防災力の向上
(3) 救急医療体制・健康危機管理の充実	① 持続可能な救急医療体制の構築 ② 救急業務の高度化 ③ 新たな感染症対策（神戸モデル）の推進
(4) 自殺対策の推進	① 「神戸市いのち大切プラン（仮称）」の推進 ② 「自殺予防情報センター（仮称）」の設置・運営 ③ かかりつけ医と精神科医の連携の構築

テーマ3 新たな活力を生み出す

神戸の経済が力強く成長して市民の暮らしを支えるため、医療分野や低炭素分野などの成長分野の企業の集積や、市内企業の新分野への挑戦を進めるとともに、その原動力となる海・空・陸の交通基盤について規制緩和や機能強化などによる充実を図っていく。

2015年の神戸

- ・企業誘致に関するインセンティブの拡充や、総合特区の活用による規制緩和などを通じ、2015年度には累計100ha以上の産業用地売却を達成するなど、成長分野の企業集積がさらに加速し、市民の雇用の場が創出されています。
- ・医療分野や、低炭素社会に貢献するエネルギー分野など、成長分野を中心とした起業・第二創業が一層促進され、2015年度にはドリームキャッチプロジェクト認定企業による創業30社、新規雇用120人が実現しています。
- ・阪神港における「国際コンテナ戦略港湾総合特区」の実現や、神戸港・大阪港の両埠頭公社の民営化・経営統合などの取り組みにより、阪神港の外貿コンテナ貨物量は、400万TEU（2008年実績）から490万TEUに伸びています。さらに神戸空港における路線ネットワークの充実や機能充実、規制緩和などの取り組みや、主要道路ネットワークの着実な構築も含めて、神戸で新たな活力が生み出される基盤が整えられています。

重点施策	事業内容
(1) 成長分野の企業集積の促進	① 企業誘致に関するインセンティブの拡充 ② 神戸医療産業都市構想や京速コンピュータ「京」などを活用した企業集積の推進 ③ 低炭素関連分野への進出等の促進 ④ コンテンツ産業の集積促進
(2) 新たな分野への挑戦支援	① KOBE ドリームキャッチプロジェクトによる支援拡充 ② 政府系金融機関や民間資金による創業支援資金（融資、投資）の活用
(3) 阪神港国際コンテナ戦略港湾の機能強化	① 阪神港国際コンテナ戦略港湾の機能強化
(4) 神戸空港の機能強化	① 路線ネットワークの充実 ② 機能充実や規制緩和
(5) 道路ネットワークの充実	① 主要幹線道路ネットワークの構築 ② 利用しやすい有料道路の料金体系の構築

テーマ4 産業を活性化する

市民の雇用を確保して暮らしを守るため、ものづくり、農漁業、商業など神戸に根づく産業について、高付加価値化や販路拡大を進め、さらなる活性化を図っていく。

2015年の神戸

- ・ものづくり分野などの市内中小企業のマーケティング力が高まり、「提案型ものづくり企業」が着実に増加しています。また神戸ブランドの発信強化やビジネスマッチングなどを通じて中小企業の国内外での販路拡大のための取り組みが一層進んでいます。
- ・次世代スーパーコンピュータ（京速コンピュータ「京」）が稼働し、その利活用促進などにより、市内企業の技術向上による高付加価値化に向けた取り組みが進んでいます。
- ・「こうべ旬菜」の出荷量増加など、農水産物の地産地消が一層進んでいます。また「美味しいものづくり」など市内農水産物のブランド化に向けた取り組みが進んでいます。
- ・5年間で累計140店舗がネット出店するなど個店の魅力の発掘・向上が進むとともに、都心部における集客観光やまちづくりと一体化した都市型商業の魅力向上など、商店街・小売市場の活性化に向けた取り組みが進んでいます。

重点施策	事業内容
(1)ものづくりを核とした「売っていく仕組み」の支援	① 中小企業のマーケティング力の向上 ② デザインとブランド力を活かした付加価値の向上 ③ ビジネスマッチングによる国内・海外への販路拡大 ④ 地元企業等による水インフラ事業の海外展開への支援
(2)ものづくりの技術向上・人材育成支援	① 京速コンピュータ「京」などの利活用に取り組む事業者への支援 ② 医療機器開発支援 ③ ロボット技術の活用促進 ④ 次代のものづくりの人材育成 ⑤ 大企業や大学の人材・技術の活用による技術力向上
(3)農水産業の活性化	① 地産地消の推進 ② 神戸ブランド化の推進 ③ 後継者や新規参入者などの人づくりの推進
(4)商店街・小売市場の活性化	① 「個店」の魅力発掘による商業活性化 ② 集客観光やまちづくりと一体化した都市型商業の魅力向上 ③ 地域住民ニーズ対応型サービスへの支援

テーマ5 多様な市民が活躍する

市民がお互いに人権を尊重して多様性を認め合う意識をもち、各主体が共通の理解と目標のもと「ユニバーサルデザイン (UD)」、すなわち誰もが利用しやすいまちや建物、製品、環境、サービスづくり等に取り組んでいく。

またすべての市民が感性を高め、生きがいを持ってくらせる豊かな社会の実現に向けて、文化芸術を活かした取り組みを進めていく。さらに多様な年齢や世代の市民が日常的にスポーツに取り組める環境づくりを進める。

2015年の神戸

- ・地域団体の UD の視点での取り組み事業の拡大（現状 8 事業→2015 年度 67 事業）により組織的な意識啓発の取り組みが進んでいます。また歩道・駅舎・公園などまちのバリアフリー化のための整備が重点的に進められています。
- ・年齢、性別、身体状況などに関わらず多様な人材が能力を発揮でき、都市全体で多様性が活きるまちづくり（ダイバーシティ・マネジメント）が新たな都市戦略として進められています。
- ・ART サポーターズ活動の増加（現状 1,813 件→2015 年度 2,000 件）など文化芸術創造のための基盤となる「人づくり」とともに、アート系 NPO、ボランティア団体、地域団体等と文化芸術を活かした「まちづくり」を進めます
- ・神戸マラソン大会をはじめとする大規模スポーツイベントなどの取り組みを通じ、スポーツが一層盛んになっています。

重点施策	事業内容
(1) ユニバーサルデザイン (UD) の推進	① 地域組織をはじめとした市民への UD 普及啓発 ② 次期神戸市バリアフリー基本構想の策定・実施
(2) 多様な人が活躍できる土壌づくり	① ワーク・ライフ・バランスの推進 ② 女性の活躍推進 ③ 高齢者の活躍推進 ④ 外国人の活躍推進 ⑤ 障がい者の活躍推進 ⑥ 若年者の社会的自立の支援
(3) 文化芸術を活かしたまちづくりの推進	① 市民の文化芸術活動のさらなる充実 ② 文化芸術を活かしたまちづくり活動の促進 ③ 文化芸術を担う人材の育成 ④ 文化施設の機能強化
(4) 「する」「みる」「ささえる」スポーツの振興	① 神戸総合型地域スポーツクラブの充実（「する」スポーツ） ② 大規模スポーツイベントの開催（「みる」スポーツ） ③ スポーツボランティアの育成・活用（「ささえる」スポーツ）

テーマ6 次世代市民を育む

少子化の進行や家庭・地域の教育力の低下などが懸念される中、次世代市民として将来の神戸のまちづくりを担う子どもたちが心身ともに健やかに生まれ、心豊かにたくましく生きる人間として育つよう、育児支援や保育の充実、豊かなこころの育成、児童虐待防止など様々な取り組みを通じて、子育てする家庭を社会全体で支えるまちづくりを進める。

2015年の神戸

- ・待機児童解消をめざして保育所定員が拡大（現状 19,328 人→2015 年度 21,188 人）し、あわせて延長保育（3,180 人→4,460 人）や休日保育（429 人→600 人）、病児・病後児保育（8 か所→14 か所）、学童保育（189 箇所→230 箇所）など多様な保育サービスが一層充実しています。
- ・「次世代のこどもを育む市民会議」などの取り組みを通じ、社会全体で、子どもに命の大切さや規範意識などが浸透しつつあります。
- ・地域子育て支援拠点の拡充（現状 14 か所→2015 年度 19 か所）など、地域が一体となった子育て・教育支援が進んでいます。
- ・独自教材の活用や、教職員の能力向上のための校内研修の充実などを通じて、子どもの学力や体力などが一層向上しています。
- ・複数の障がいに対応できる特別支援学校が 2013 年度までに 2 か所整備され、「特別支援学校版分かる授業」を 2011 年度より調査研究を経て、毎年順次実施校を増やすなど、障がいのある子どもへの支援体制が充実しています。
- ・児童虐待防止のため関係機関の連携が一層強化され、小規模グループケアの拡大（現状 14 か所→2015 年度 21 か所）など個別ケアも一層充実しています。

重点施策	事業内容
(1) 妊娠・出産・育児への支援	① 妊娠・出産・育児への不安の解消 ② 母子の健康の保持増進
(2) 保育の充実	① 保育所整備等による待機児童の解消 ② 多様な保育サービスの充実 ③ 幼保一体化への取り組み ④ 学童保育の充実
(3) 豊かなこころの育成	① 次世代のこどもを育む市民会議 ② 「人間関係力向上プログラム」の活用 ③ 命を大切にす教育の推進 ④ 読書環境の向上 ⑤ 「あいさつ・手伝い運動」の推進
(4) 地域が一体となった子育て・教育の支援	① 地域子育て支援拠点の拡充 ② 「子ども見守り活動隊」の活動推進 ③ 教育・地域連携センターの活用 ④ 青少年の健全育成

(5) 学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 確かな学力と意欲の向上 ② 健康・体力の増進 ③ 特色ある教育の推進 ④ 教職員の人材育成や指導力向上
(6) 障がいのある子どもへの療育・教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 障がい児の療育体制の充実 ② 特別支援教育に関する相談・支援体制の充実 ③ 複数の障がいに対応できる特別支援学校の整備 ④ 「特別支援学校版分かる授業」の推進
(7) 児童虐待防止対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 関係機関との連携 ② 発生予防・早期発見のための事業の充実 ③ 市民への啓発等 ④ 児童養護施設等での心理的・個別ケア、保護者へのカウンセリング

テーマ7 安全・安心の基盤を築く

高まる災害・危機のリスクに備えるため、学校やすまいをはじめとする各種建築物の耐震化を一層推進するほか、密集市街地や浸水危険地域における安全性向上の取り組みを進める。さらに社会基盤施設の老朽化に対応して、計画的な維持・補修・更新を進めることで、都市の安全性を確保する。

2015年の神戸

- ・今後5年間で小中学校・幼稚園・特別支援学校・高等学校の耐震化を順次100%完了し、すまいの耐震化については対象家屋の95%完了、橋梁の耐震化については対象92橋が100%完了するなど、地震に強いまちづくりが進んでいます。
- ・密集市街地における老朽木造住宅の除却や空き地の有効活用、道路の拡幅などの取り組みが進み、防災上の課題が改善されるなど、安全性が向上しています。
- ・長田南部地区・三宮南地区の概成など内水排除施設の整備や内水ハザードマップの作成・公表、神戸港における防潮胸壁整備などを通じて、浸水に強いまちづくりが進んでいます。
- ・橋梁や上下水道など、大量更新期を迎える公共施設について、アセットマネジメント等の手法を導入し、効果的・効率的な修繕による長寿命化や改築更新が進んでいます。

重点施策	事業内容
(1)耐震化の推進	① 学校施設の耐震化 ② すまいの耐震化、家具固定の促進 ③ 橋梁の耐震化 ④ 上下水道の耐震化
(2)密集市街地の再生	① 燃え広がりにくいまちづくりの推進 ② 建物が倒壊せず、避難が可能なまちづくりの推進 ③ 防災性と地域魅力を向上するまちづくりの推進
(3)浸水に強いまちづくり	① 都市の浸水対策 ② 神戸港の高潮対策 ③ 河川の改修 ④ 雨水流出抑制施策の推進
(4)公共施設の長寿命化、計画的更新の推進	① 橋梁長寿命化修繕計画の確実な運用と見直し ② 水道施設の計画的な更新と機能強化 ③ 下水道施設の計画的な改築・更新と機能強化 ④ 公園施設長寿命化計画の策定と運用

テーマ8 持続可能なまちをつくる

環境負荷の少ない持続的発展が可能なまちをめざして、海、山に囲まれた神戸の豊かな自然の恵みを次の世代に引き継いでいくために、低炭素社会、自然共生社会、循環型社会の実現に向けた取り組みを進める。

特に六甲山系については景観や生物多様性の保全、また緑による保水力など防災の観点からも、荒廃を防ぐ取り組みを協働で進める。

2015年の神戸

- ・神戸の貴重な財産である六甲山について、2011年度に策定された「六甲山森林整備戦略プラン（仮称）」に基づき、保全・育成のための取り組みが総合的に推進されています。（年間の保全・育成面積：現状 30～50ha→2015年度 150ha）
- ・2011年度に策定された「水の基本計画（仮称）」に基づき、健全な水循環系の形成に向けた総合的なマネジメントが展開されています。また河川及び河川沿い緑地の整備や、街路の緑の充実、屋上緑化、壁面緑化などの取り組みを通じ、豊かな自然を活かした水と緑にあふれるまちづくりが進められています。
- ・次世代自動車や自転車などの環境にやさしい交通手段の普及や、バイオガスや太陽光などの再生可能エネルギーの導入・普及、省エネルギー設備の普及が進んでいます。
- ・容器包装プラスチックの分別収集の全市展開（現状 1,400 t→2015年度 21,900 t）や、「雑がみ」に焦点をあてた資源化推進（15,100 t→21,100 t）などを通じ、ごみ処理量のさらなる削減が進んでいます。
- ・エコタウンまちづくりの取り組みが全市展開されています。（166地区中、現状 93地区→2015年度 128地区。2020年度までに全地区実施予定。）
- ・これらの取り組みを通じ、2015年度の温室効果ガス排出量について、1990年度比で10%以上の削減が実現しています。

重点施策	事業内容
(1) 六甲山の緑の保全・育成	① 「六甲山森林整備戦略プラン（仮称）」の策定 ② 森林保全・育成の拡大実施 ③ 市民や企業との協働による森づくり ④ ナラ枯れに対する危機管理体制の確立 ⑤ CO ₂ 吸収源など六甲山の持つ機能・資源の活用推進
(2) 豊かな自然を活かした水と緑にあふれるまちづくり	① 健全な水循環の形成 ② 水と緑による潤いのあるまちの形成 ③ 多様な生きものを育む田園環境の保全・再生 ④ 多様な主体との協働による生物多様性保全の仕組みづくり ⑤ 生物多様性保全のシンボル拠点整備の推進
(3) 交通環境の向上及び地域拠点の機能強化	① 総合的な交通環境の形成 ② 次世代自動車の普及促進 ③ 自転車の利用環境の整備 ④ 地域拠点の機能強化

<p>(4) 低炭素都市づくりの推進</p>	<p>① 低炭素都市の実現に向けた仕組みづくり ② 再生可能エネルギー、未利用エネルギーの導入・普及促進 ③ 地区単位での低炭素化の推進 ④ 建築物・施設ごとの低炭素化の推進 ⑤ 「神戸版CO₂削減バンク制度(仮称)」の創設検討 ⑥ イベント開催時のカーボンオフセットの導入推進 ⑦ 家庭部門における温室効果ガスの「見える化」の推進</p>
<p>(5) ごみの減量、資源化など環境にやさしい地域づくり</p>	<p>① 分別の徹底とさらなる減量・資源化の推進 ② エコタウンまちづくりの全市展開 ③ 環境学習の充実</p>

テーマ9 人と人とのつながりを深める

少子・超高齢化の進行など社会経済情勢が大きく変化する中、震災を機に醸成された地域における人と人とのつながりをさらに深めることで、市民の知恵と力が生きる個性豊かで活力にあふれた地域社会の構築を図る。

このため地域の様々な活動主体がゆるやかに連携し、総合的・自律的な地域運営を進めることをめざした支援の充実を図るとともに、地域課題を解決するための主体として近年注目されている社会的企業の育成・支援を行う。

2015年の神戸

- ・パートナーシップ協定の締結（現状3地区）が2013年度には全区に拡大し、協定締結による地域課題解決とその取り組みを通じた地域力の向上が進んでいます。また地域活動統合助成金について現在のモデル展開をさらに拡充し、2013年度には本格的に制度化されています。
- ・2011年度から開始する「わがまち空間づくり活動」について、毎年度2地区程度で「わがまち空間構想」の策定を進め、2015年度には累計10地区において策定します。
- ・各区において協働のまちづくりをコーディネート・支援・情報発信する「区プラットフォーム」について、現状（4区設置）から、2015年度には9区すべてに拡大されています。
- ・「神戸ソーシャルビジネス円卓会議」において、社会的企業（「神戸版ソーシャルビジネス」）の創出、事業化支援のための仕組みづくりを行い、様々な分野で社会的企業が活躍する環境が整えられています。

重点施策	事業内容
(1) 地域活動の活性化	① パートナーシップ協定締結の推進 ② 地域活動統合助成金モデル実施の推進 ③ 地域人材支援センターの活用 ④ わがまち空間づくり活動の支援 ⑤ 地域担当制の充実・強化
(2) 社会的企業の育成	① 神戸ソーシャルビジネス円卓会議 ② 社会的企業の間接支援機関との協働推進

テーマ 10 行政の「つながる力」を高める

ICTの積極的な活用などを通じ市の広報・広聴機能を一層充実させることで、市民のニーズを的確に把握するとともに、分かりやすい情報提供を進め、市民に身近な行政の推進を図る。

また関西の4つの政令指定都市間において連携を一層強化するとともに、周辺市町との連携を進めることで、関西圏全体の活性化を図り、広域的施策を展開する。あわせて姉妹・友好都市提携など海外とのきずなを活かして、世界に向けた神戸の発信を図る。

2015年の神戸

- ・「(仮称) 神戸市総合コールセンター」によって市民の問い合わせ等が一元的に受け付けられるとともに、「(仮称) 市民の声集約活用システム」の構築によって市民ニーズの適切かつタイムリーな把握と市政運営への活用が進んでいます。コールセンター運用2年目の2012年度において、利用者満足度が80%以上に達しています。
- ・神戸市のホームページを、あらゆる市民にとって一層使いやすい身近なものに改善し、利用者満足度が現状の60%から2015年度には75%に達しています。
- ・区民サービスディレクターの配置実績が、現状の5区から2012年度には全9区となり、ホスピタリティあふれる区民サービスが提供されています。
- ・関西における都市間連携をさらに強化するとともに、姉妹・友好都市やユネスコ創造都市ネットワークなどを活用した海外との連携が一層強化されています。また神戸ゆかりの外国人が14名、プロモーション人材として委嘱されています。

重点施策	事業内容
(1) 市民に身近な行政の推進	① 「(仮称) 神戸市総合コールセンター」と「(仮称) 市民の声集約活用システム」の活用 ② 神戸市ホームページの一層の利便性向上 ③ 窓口サービスのさらなる充実
(2) 都市間連携の強化	① 関西4都市連携 ② 近隣市町との連携 ③ 提携都市間での多都市間交流の推進 ④ 神戸ゆかりの人材組織の活用による神戸プロモーションの展開

テーマ 11 創造性を高め発揮する

都市間競争が激しくする中、神戸の持つ独自性を活かした「デザイン都市」の取り組みをさらに推進することで、継続的に成長し続ける創造都市の実現をめざし、国内外から多様な人材が集い活躍するまちづくりを進めていく。

また神戸医療産業都市構想をさらに推進するとともに、次世代スーパーコンピュータ（京速コンピュータ「京」）を活かした産業の高度化・活性化、さらに大学との連携の一層の強化など、神戸のもつ強みである「知の集積」を活かした取り組みを進めていく。

2015年の神戸

- ・2012年度に供用開始する「(仮称) デザイン・クリエイティブセンターKOBÉ」を拠点として、1,000人のクリエイターが登録し活躍するなど、創造的人材の育成・集積が進んでいます。そして、その力を活用した地域社会への貢献、さらにユネスコ・創造都市ネットワークなどを活用したシンポジウムやコンペティションなどの連携・交流事業（2015年度：10件目標）が進んでいます。
- ・神戸医療産業都市構想において、アジア No.1 のバイオメディカルクラスターへの成長をめざして、高度専門病院の集積や、総合特区の活用による規制緩和などにより高度医療サービスの提供や医療機器開発などが進んでいます。
- ・2012年度供用開始予定の京速コンピュータ「京」による研究基盤の集積や市民福祉への貢献が進んでいます。

重点施策	事業内容
(1) 「デザイン都市」の実現に向けた人材の集積・活躍	① 人材の育成・集積 ② 地域社会への貢献 ③ ネットワークの構築・情報発信 ④ 創造と交流の場づくり
(2) 知の創造拠点づくり	① 神戸医療産業都市構想の推進 ② 京速コンピュータ「京」などの利活用 ③ 「神戸国際医療産業特区」の実現によるライフ・イノベーションのグローバル拠点化 ④ 大学連携の推進

テーマ 12 まちの魅力を高め発信する

神戸の魅力的なまちなみや環境を守り育てるとともに、自然・歴史・ライフスタイルが作り出した神戸独自の観光資源を磨き、「おもてなし」を充実することで、市民が愛着を持ち、来街者によりにぎわうまちづくりを進める。

さらに「デザイン都市」を具現化するエリアとして都心・ウォーターフロントの活性化を図るとともに、先端技術の拠点であり豊かな歴史を持つ兵庫運河周辺の発信力を高めていく。

2015年の神戸

- ・魅力ある景観が得られる場所（ビューポイント）が2015年度までに15か所整備され、また景観形成重要建築物等の指定（現状12か所）について2015年度までに20か所が指定されるなど、神戸の魅力ある景観を守り育てる取り組みが進んでいます。
- ・神戸ならではの観光資源の活用や、MICEの強力な推進などを通じ、観光入込客数が増加し、また国際コンベンション開催件数が増加（現状94件→2015年度100件）しています。
- ・港やまちなみなど、神戸の特徴を活かし、「デザイン都市」を具現化するエリアとして、三宮駅周辺の大改造や、新港第1突堤・メリケンパーク周辺の再開発など、都心・ウォーターフロントの魅力が一層向上しています。
- ・先端技術の産業拠点であるとともに豊かな歴史を持つ兵庫運河周辺を中心とするエリアの発信力が高まっています。

重点施策	事業内容
(1) 魅力あるまちなみや景観づくり	① 神戸らしい景観が見える場所（ビューポイント）の整備・育成 ② 歴史的建築物等の保全活用策の強化・拡充 ③ 屋外広告物のデザイン誘導のためのルールづくりの推進 ④ 道路の無電柱化の推進
(2) 観光交流の推進	① 神戸ならではの観光の推進 ② MICEの強力な推進 ③ 国別志向に対応した外客誘致の推進 ④ 周遊と滞在につながる観光の推進 ⑤ 観光案内機能と情報発信の強化
(3) 都心・ウォーターフロントの魅力向上	① 三宮駅周辺の大改造の推進 ② 新港第1突堤、メリケンパーク周辺の民間活力を活かした再開発 ③ 波止場町1番地におけるオープン空間の整備 ④ 都心とウォーターフロントの回遊性の向上 ⑤ ハーバーランドの活性化
(4) 兵庫運河～新長田周辺の魅力向上	① 地下鉄海岸線沿線プロジェクトの推進 ② 兵庫運河を活かしたまちづくり ③ 新長田周辺のまちづくり

むすび 「神戸 2015 ビジョン」の実現に向けて

着実な進行管理

- ・毎年度の PDCA サイクルによる検証・評価、およびこれに基づく改善・改革による着実な推進を図る。
- ・検証・評価結果や社会経済情勢の変化等をふまえ、柔軟かつ機動的に計画を見直す。
- ・市民・大学等・事業者は、計画の進捗に関心を持ち、改善に向けた意見を表明するなど、自ら計画の実践者として主体的に参画する。
- ・市は行政改革や人材育成を進め、より効率的で質の高い市政運営を実行する。

協働と参画のより一層の推進 ～ “協創” による計画実現

- ・「神戸づくりの指針」に掲げる“協創”を実現する。

協創とは

都市ぐるみで「ひと（人）」を「たから（財）」と捉え、多様な「人財」が集い・交わり・活きるまちづくりを進めるとともに、それら「人財」のきずなを深めながら協働と参画をさらに発展的に推進し、新たな豊かさを創造していく姿

- ・市民・大学等・事業者・行政の各主体が取り組む実行計画として位置づける。
- ・計画期間中に阪神・淡路大震災から 20 年という節目の年を迎えることをふまえ、復旧・復興に協働で取り組んだ経験・教訓を次の世代に受け継ぐとともに、よりよい明日の神戸をめざす。

各区計画（概要）

1 考え方

各区計画は、各区の個性や特性を活かし、生活に密着した分野を中心に、区民と目標を共有し協働で取り組むための計画として、区民や地域団体等の意見を聞きながら、各区の区民まちづくり会議が中心となって素案を策定しました。

各区計画の推進にあたっては、区民まちづくり会議が検証・評価し、その結果を踏まえて改善に取り組むPDCAサイクルにより計画の進行管理を行います。

<参考> 区民まちづくり会議

区のまちづくりについて、区民が自ら話し合うとともに、区民の創意や活力を生かした各種の実践活動を進め、市民・事業者・行政による協働のまちづくりを地域から先導する場として平成6年に設置。1期2年単位で、地縁団体やボランティア、NPO、大学関係者など多様な市民層から、各区ごとに約50人前後の委員を市長より委嘱しており、区民活動の企画・検討や実践、市政への提言などに取り組んでいる。

2 基本的な構成

区の現状・課題： 各種データや区民アンケートなどの区民参画の結果からみる区の個性や特性	
2025年（平成37年）に向けた区の将来像： 区民と共有する区の将来の姿	
5年間 (2011 年度 ～ 2015 年度) の 実行 計画	重点テーマ： 区民の生活に密着した分野を中心に、区民と行政が協働で取り組むものに重点をおいてテーマを絞り込む。
	具体的な取り組み： 区民と行政が互いの役割を尊重しながら計画の推進に取り組むため、「区民が中心となって取り組むこと」「行政が中心となって取り組むこと」「行政と市民が一緒になって取り組むこと」に分類する。
	まちづくり指標： 区民と行政の協働の取り組みの進捗状況を把握するための参考資料として数値目標を設定する。目標達成に向けて、区民が自ら実践するわかりやすいものを選定する。

3 各区の将来像と 2015 年度までの主な取り組み

① 東灘区計画(素案)

すてきがあふれ、交流の風が吹くまち「ふるさと都市・東灘」

●子育てを応援する

妊婦や子育て中の父親や母親同士が交流し互いに支え合う関係を育み、子どもを安心して産み育てられるようにしていきます。

- ・ 子育てへの父親の参加を促進するための「お父さん出番ですよ」の開催
- ・ 妊婦同士の交流を促進するための「妊婦のおしゃべり広場」の開催

●まち全体で暮らす人を守る

地域見守り活動や認知症対策など、まちのみんなで支え合う取り組みを引き続き推進することにより、誰もが地域社会の中で安心して暮らせるようにしていきます。

- ・ 徘徊の早期発見のための関係機関のネットワークづくり
- ・ 「見守りコミュニティグループ」による地域の見守り活動の推進

●わがまちをつくる

地域が主体となって、地域の目標をひとつずつ実現していくことにより、地域コミュニティの活性化を図り、魅力あるまちを実現していきます。

- ・ これからの地域のあるべき姿を考える「地域の将来像を描く」取り組みの推進

② 灘区計画(素案)

豊かな自然と笑顔あふれる 住み続けたいまち

●「つながり」- ふれあいで 人と人がつながるまちづくり -

新たなまちづくりの人材を発掘・育成するとともに、地域の一員である事業者や大学・学生、NPO 等の多様なまちづくりの担い手との連携強化に取り組み、「みんなの力」を結集して「住みよい元気なまち」を創ります。

- ・ 団塊の世代や転入者等の地域活動参加に向けたきっかけづくり
- ・ 地域と児童の交流事業などによる、小学生からの地域活動参加の促進
- ・ 事業者によるまちづくり活動や大学、地域の連携事業の一層の推進

●「思いやり」- 生活マナーを守る 気持ちよく暮らせるまちづくり -

区民にとっては「住み続けたいまち」として、また、区外の人にとっては「訪れてみたくなるまち」となるよう、区民一人ひとりが生活マナーを守り、気持ちよく暮らせるまちづくりを進め、まち全体のホスピタリティの向上を図ります。

- ・ ごみの不法投棄、違法駐車・駐輪など、生活マナー向上に関する区民運動の強化
- ・ ごみ出しマナー推進協定（ワケトン協定）の締結
- ・ まちかど緑化・飾花の推進や区の花を活かしたまちづくり

③ 中央区計画(素案)

くらす魅力、つどう魅力、多彩な個性が響きあう都心^{まち} 中央区

●くらしたくなる「都心^{まち}・中央区」づくり

生涯を通じた健康づくり、子育てをしやすい環境づくり、安全で安心して暮らせる地域づくりを進めるとともに、地域の多彩な魅力を発信することで、住み続けたいくなる・暮らしたいくなる「都心^{まち}・中央区」の実現を目指します。

- ・ 地域と協働した放置自転車対策や自転車の乗り方マナー向上のための啓発
- ・ 結核などの感染症対策の推進
- ・ 地域の魅力の創造と再発見の推進による住み続けたいくなるまちづくり

●つどいたくなる「都心^{まち}・中央区」づくり

商業施設や業務施設などの都心機能の集積やみなと・空港といった中央区の特徴を活かして、まちのにぎわいの演出を支援し、人々がつどうおもてなしの心あふれる「都心^{まち}・中央区」を実現します。

- ・ 都心回遊の魅力を発信する個性的なマップ作成など、来街者へのおもてなし活動の支援
- ・ 落書き消去活動や壁画の設置など、地域との協働による美しいまちづくり

④ 兵庫区計画(素案)

やさしさと思いやりのまち 兵庫

●子どもの笑顔を守り育てる

これからの兵庫区を担う子どもたちが明るい笑顔でありつづけることができるように、関係機関、関係者と地域が連携して、出生(妊娠期)から、乳幼児期、小中学校、青年期まで切れ目なく、一貫して子どもの成長を見守り、育んでいきます。

- ・ 地域での「子育てサークル活動」や「子育てサロン」の開設の推進
- ・ 親が持つ子育ての力を強める「親育ち応援事業」の実施
- ・ 地域ぐるみでの見守り体制の充実や青少年の健全育成

●南北交流の“わ”づくり

南北に長い兵庫区の魅力や活力を、区全体で活用・共有できるよう、兵庫の“わ”づくりを進めます。特に、南北をつなぐ核として、区の中心である湊川地域の整備・機能強化を図り、その活性化をめざす取り組みを進めます。

- ・ 区民との協働による、区総合庁舎のあり方等「湊川地域の将来像」の検討
- ・ 人が集まりやすく、人が利用しやすい区民ホールの設置の検討
- ・ 南北地域団体の交流イベント、区内各地のイベント情報提供の充実

⑤ 北区計画(素案)

人が集い 安心して暮らせる 魅力あふれる 緑といで湯のまち

●北区の魅力の活用と情報発信

豊かな自然や、数多く残されている歴史文化資源、有馬温泉などの観光資源を北区の魅力として活用するとともに、幅広く情報発信し、多くの人に足を運んでもらい、まちの活性化を図ります。

- ・ 四季折々の風景を楽しみながら名所旧跡などを散策するハイキングの開催
- ・ 農村歌舞伎舞台や茅葺き民家を活用したイベントの開催
- ・ 「有馬温泉と周辺観光地」「有馬温泉と農業」などの連携を深める仕組みづくり

●安全で便利なくらしの実現

広大な北区の地域間のみならず、地域内での移動手段の確保について取り組み、安全で便利なくらしの実現をめざします。また、鈴蘭台駅前整備をはじめとした、安全・便利でにぎわいのあるまちづくりを進めます。

- ・ 地域が主体となった公共交通の利用促進や地域コミュニティバスの運行
- ・ 鈴蘭台駅前広場の整備によるビルの共同化、周辺のバリアフリー化

⑥ 長田区計画(素案)

世界に誇れ！ 食と鉄人 「ゲー」なまち 長田

●老いも若きも共に楽しく和やかなまち

子育て環境、高齢者の居場所などの整備、高齢者と子ども・子育て世代の地域における交流を推進します。また、健康を維持する方策やスポーツの充実を図ります。

- ・ 子どもに昔遊びを教える「あそびマエストロ（名人）」で高齢者の活躍の場づくり
- ・ 乳幼児期からの歯磨きの習慣づけなど、むし歯予防の推進による「健口（けんこう）のすすめ」

●また来てみたいおもしろいまち

多くの方々に来てもらうために、食・歴史など「文化」を切り口に PR します。文化を徹底的に洗い出し、それらに触れる様々な機会の創出、文化の継承発信などを行います。

- ・ 長田の食文化の調査などによる“ええとこ”を発掘整理
- ・ 鉄人28号、三国志、ゲーjeeなどキャラクターを用いたまちのにぎわいづくり

●自然を生かしたうつくしいまち

長田の地域力を生かした効果的なソフトの取り組みを工夫し、まちの自然を生かしたうつくしいまちをつくっていきます。

- ・ 「緑のカーテン」（長田ゴーヤ大作戦）の全区展開
- ・ 自然にかかわる活動の推進による自然を通じた人々の協働と交流

⑦ 須磨区計画(素案)

地域の力と情熱があふれる住みよいまち—須磨—

●青少年の防犯・防災意識の向上と活躍の場づくり

各種地域リーダーや専門家の協力を得ながら、青少年に対し、防犯や防災に関する学習の機会を提供し、意識啓発を進めます。また、「青少年が地域を担う」という観点から、防災訓練などの地域活動への青少年の参加を促しながら、地域で青少年を守り育てます。

- ・地域の防犯・防災活動への青少年の参加促進の仕組みづくり
- ・地域の催しなどに青少年が参画し、活躍できる場づくり

●須磨の魅力発信と「おもてなし機運」の向上

須磨の雰囲気や魅力資源を愛する「須磨ファン」を発掘し、須磨の魅力発信源となるよう仕組みづくりを進めるとともに、まち歩きを通して須磨を楽しむことができるよう、「おもてなし協力店」の設置やテーマに応じた観光ガイドなど、まち全体で「おもてなし機運」の向上を図ります。

- ・須磨を愛する「須磨ファン」の発掘と「須磨ファン」と協働した情報発信の取り組み
- ・須磨のまちや名所などを紹介する店「おもてなし協力店」の設置

⑧ 垂水区計画(素案)

住みたい 住み続けたいまち 垂水

●地域総合力の強化

ふれあいのまちづくり協議会を中心に、地域活動が活発におこなわれている垂水のまちの特徴をさらに発展させ、地域総合力の強化を図ります。

- ・各種地域団体の交流・連携の推進や地域団体とNPO等各種団体との交流の促進
- ・地域情報を集約したホームページの作成・発信などの情報交流拠点づくりの推進

●子どももおとしよりもいきいきと暮らせるまちづくり

人のつながりによって、地域で安心して子育てができ、高齢者が安心していきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

- ・「子育てアドバイザー（愛称：フレンドママ）」の育成や「子育てサークル」活動への支援
- ・地域行事や登下校時の安全見守り活動など高齢者の活躍の場づくりや、地域で高齢者を見守る「友愛訪問ボランティアグループ」の活動の充実

●生活文化圏でのまちづくり

地形的圏域や社会的圏域によって地域特性の異なる6つの“生活文化圏”ごとに、歴史的遺産や伝統文化などの地域資源の活用や、子どもからおとしりまでの幅広い交流など、固有の重点目標を定めて、各地域での個性を生かしたまちづくりを進めます。

⑨ 西区計画(素案)

美しいまち西区 新しい田園都市をめざして

●災害に強いまちづくり

防災訓練や市民救命士講習会などを通じ、地域での自主防災力の向上を図るとともに、情報伝達網を整備し、災害時に活用できるシステムづくりを行います。

- ・親子参加による防災講習会の開催や各地域でのジュニアチームの結成・活動への支援
- ・一人暮らしの高齢者など、要援護者の情報を集約する「災害時一人も見逃さない運動」

●犯罪のない安全で安心なまちづくり

各地域での防犯対策を支援するとともに、大規模工業団地が立地し、事業所が多いという西区の特性を活かして、住民、事業者、行政が一体となって自主防犯力の向上に取り組みます。

- ・区民に対して区内の犯罪情報などを提供する「西区メール配信システム」の充実
- ・区内事業所と「(仮称)西区安全安心まちづくり協定」の締結による取り組みの推進

●都市と農村との交流

自然豊かな農村地域の活性化のため、区内産農産物について地産地消の推進を図るとともに、都市部住民との交流を進め、農業や産業の多様性と文化への理解を深めます。

- ・次代を担う子どもに対する、農業体験による情操教育や区内産の食材を活かした食育
- ・農業のほか、工業や伝統芸能などを巡る「西区魅力発見ツアー」を地域団体等と実施

神戸市総合基本計画審議会名簿

(平成22年11月25日現在 敬称略、順不同)

【委員】

(委員89名)

(1) 学識経験を有する者(32名)

朝倉康夫	神戸大学大学院工学研究科教授
伊多波良雄	同志社大学経済学部教授
沖村孝	建設工学研究所常務理事、神戸大学名誉教授
加護野忠男	神戸大学大学院経営学研究科教授
加藤恵正	兵庫県立大学政策科学研究所教授
角野幸博	関西学院大学総合政策学部教授
金井壽宏	神戸大学大学院経営学研究科教授
神木哲男	神戸大学名誉教授
黒田勝彦	神戸市立工業高等専門学校校長
小浦久子	大阪大学大学院工学研究科准教授
齊木崇人	神戸芸術工科大学学長
鎮目真人	立命館大学産業社会学部准教授
高井義美	神戸大学大学院医学研究科長・医学部長
立木茂雄	同志社大学社会学部教授
田中直人	摂南大学工学部教授
田辺真人	園田学園女子大学名誉教授
寺見陽子	神戸松蔭女子学院大学人間科学部教授
中川幾郎	帝塚山大学大学院法政策研究科教授
中野加都子	神戸山手大学現代社会学部教授
中村千春	神戸大学理事・副学長
長瀬荘一	神戸女子短期大学教授
新野幸次郎	神戸大学名誉教授
西川伸一	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長
西村順二	甲南大学経営学部教授
林春男	京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授
福田千津子	元神戸常磐短期大学教授
北後明彦	神戸大学都市安全研究センター教授
牧里毎治	関西学院大学人間福祉学部教授
増田昇	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
松原一郎	関西大学社会学部教授
盛岡通	関西大学環境都市工学部教授
安田丑作	神戸大学名誉教授

(2) 民間各種団体の代表者等(52名)

①団体の代表者(22名)

青井清一	兵庫県港運協会会長代行
宇津寛	神戸市自治会連絡協議会会長
大辻正忠	神戸市老人クラブ連合会理事長
大森綏子	兵庫県看護協会会長
奥本一夫	社会福祉法人神戸市身体障害者団体連合会理事長
霧嶋明美	神戸市手をつなぐ育成会会長
黒川恭真	神戸市私立保育園連盟会長
清水政子	兵庫県LD親の会「たつの子」副代表
志水保次	神戸市PTA協議会会長
田川智	神戸市私立幼稚園連盟理事長
立花政弘	兵庫六甲農業協同組合代表理事副組合長
津村正男	神戸労働者福祉協議会会長
中山辰己	神戸市地域改善まちづくり協議会会長
奈良山喬一	神戸市商店街連合会会長
柵木和明	神戸市消防協会会長

原 仁 美	神戸市婦人団体協議会会長
本 庄 昭	神戸市医師会会長
松 村 英 洋	連合兵庫県連合会神戸地域協議会議長
村 田 泰 男	神戸商工会議所専務理事
村 元 四 郎	神戸市機械金属工業会会長
山 田 隆 義	神戸市水産会会長
吉 岡 正 勝	神戸市老人福祉施設連盟顧問

②各分野で活躍する実践者（27名）

伊 東 浩 司	甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター准教授
岩 田 弘 三	Feel KOBE 観光推進協議会会長、 株式会社ロック・フィールド代表取締役社長
植 村 武 雄	神戸経済同友会顧問、小泉製麻株式会社取締役社長
加 藤 隆 久	神戸芸術文化会議議長
久 利 計 一	KOBE三宮・ひと街創り協議会会長
黒 谷 静 佳	環境カウンセラー
坂 本 津留代	NPO法人「ニューいぶき」理事長
妹 尾 美智子	神戸市消費者協会専務理事
曹 英 生	神戸南京町景観形成協議会代表委員
高 崎 邦 子	株式会社JTB西日本広報室長
竹 中 ナ ミ	社会福祉法人プロップ・ステーション理事長
田 中 ま こ	神戸フィルムオフィス代表
車 得 龍	在日本大韓国民国民団兵庫県地方本部団長
中 島 幸 男	シスメックス株式会社取締役常務執行役員
中 村 順 子	NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長
永 吉 一 郎	地域ICT推進協議会副会長、 株式会社神戸デジタル・ラボ代表取締役
南 部 真知子	神戸旅客船協会理事、 株式会社神戸クルーザー・コンチェルト代表取締役社長
西 河 芳 樹	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社取締役神戸医薬研究所長
野 崎 隆 一	NPO法人神戸まちづくり研究所理事・事務局長
服 部 孝 司	株式会社神戸新聞社地域活動局長
古 河 憲 子	生活協同組合コープこうべ理事
F.E.レオンハート	神戸外国倶楽部元会長
松 田 茂 樹	神戸経済同友会代表幹事
松 永 哲 也	日本銀行神戸支店長
森 崎 清 登	長田区ユニバーサルデザイン研究会会長、 近畿タクシー株式会社代表取締役
矢 崎 和 彦	デザイン都市・神戸推進会議チエアマン、 株式会社フェリシモ代表取締役社長
山 口 淑 美	NPO法人こうべユースネット理事長

③市政アドバイザー（3名）

加 野 有 美	第10期市政アドバイザー
福 田 正 人	第10期市政アドバイザー
榎 本 久仁子	第10期市政アドバイザー

(3) 市会議員（5名）

北 山 順 一	神戸市会議員
平 野 昌 司	神戸市会議員
前 島 浩 一	神戸市会議員
松 本 のり子	神戸市会議員
吉 田 謙 治	神戸市会議員

【参与】

塚 田 幸 弘	国土交通省近畿地方整備局企画部長
中 嶋 秀 哉	国土交通省神戸運輸監理部総務企画部長
山 内 康 弘	兵庫県神戸県民局長

【委員の異動】

〔(前) 三 谷 悦 雄	平成 22 年 7 月 1 日委嘱解除
〔(後) 青 井 清 一	兵庫県港運協会会長代行
〔(前) 三 木 秀 美	平成 22 年 6 月 10 日委嘱解除
〔(後) 志 水 保 次	神戸市 P T A 協議会会長
〔(前) 渡 辺 智 教	平成 22 年 6 月 25 日委嘱解除
〔(後) 津 村 正 男	神戸労働者福祉協議会会長
〔(前) 三 條 正 豊	平成 22 年 6 月 23 日委嘱解除
〔(後) 奈良山 喬 一	神戸市商店街連合会会長
〔(前) 川 嶋 龍 一	平成 22 年 3 月 31 日委嘱解除
〔(後) 本 庄 昭	神戸市医師会会長
〔(前) 中 西 均	平成 22 年 11 月 8 日委嘱解除
〔(後) 村 田 泰 男	神戸商工会議所専務理事
〔(前) 村 田 泰 男	平成 22 年 3 月 31 日委嘱解除
〔(後) 松 田 茂 樹	神戸経済同友会代表幹事
〔(前) 高 橋 英 行	平成 22 年 10 月 1 日委嘱解除
〔(後) 松 永 哲 也	日本銀行神戸支店長
〔(前) 浜 崎 為 司	平成 22 年 6 月 24 日委嘱解除
〔(前) 松 本 修	平成 22 年 6 月 24 日委嘱解除
〔(後) 北 山 順 一	神戸市議員
〔(後) 吉 田 謙 治	神戸市議員